

「女子挺身隊」

山田 昌 （90歳）

昭和20年、高等女学校（今の中学3年生）の4月末に5月からは「皆さんはお国の為に女子挺身隊として、工場へ働きに行く事になりました。学生生活は今日までです。」と、それぞれ分担されて皆、別れ別れになりました。名残をおしんでタやみせまる頃まで学校にいました。淋しい思いでした。私は池田のダイハツ工場へ行く事になり、そして見た事もない施盤工として働く事になりました。バイトとか云う刃物を差し込んで物をけずるのですが、エンピツけずりとちがってなかなかうまく出来なくて困りました。みんな出来ない事ばかり、機械になやまされて大変でした。高射砲の止め金とか？

工場の班長さんからは「みんな、お国の為に戦地で働いている兵隊さんにすまない、こんなペケ物ばかりこしらえて、物資不足の折から何と云う事だ」と叱られました。みんな泣いてしまって、その時付きそいで来られていた先生2人が「何年もかかってなる施盤工がする仕事をわずか15歳の何も見た事も持った事もない、しかも、女子がそんなにきっちり出来る事はありません、もう少し大目にやさしく見てやってほしい。生徒はなまけてなんかいません。一生懸命にやっていて出来ないのだから。」と云って下さった。皆うれしくて、又泣けてきた。生徒を見守って下さると思うと涙が止まらなかった。それから間もなく終戦に

なった。

あれからもう今年で75年、もうその時の乙女も90才。孫やひ孫と楽しく日を送っていますが、この子供達には、あんなつらい青春を送らなくてもよい、平和が続く日本であってほしいと願っています。